

2026年度 文芸学部 主催シンポジウム

ドイツ語圏の民俗学 (Volkskunde) は「経験文化学 (Empirische Kulturwissenschaft)」へ

「オーストリア民俗学の現在」

2026年9月4日(金) 16:00~18:00 成城大学3号館1階311教室

成城大学文芸学部(東京都世田谷区 学長:杉本 義行)は、2026年度 文芸学部 主催シンポジウム「オーストリア民俗学の現在」を9月4日(金) 16:00~18:00 成城大学3号館1階311教室にて開催いたします。

日常の暮らしや文化を研究する民俗学…その研究対象は SNS や飲料ボトルなど、我々の身近なものにも広がります。なかでもオーストリアを含むドイツ語圏の民俗学 (Volkskunde) は大きな文化研究の学問へと成長し、近年は「経験文化学 (Empirische Kulturwissenschaft)」を名乗りつつあります。成城大学文芸学部ではオーストリアの民俗学 (経験文化学) を牽引する二人の研究者をお招きし最新の成果をレクチャーいただきます。

講演① 16:25~ ハイブリッドなつながり ―農村地域の若者における共同性の形成と政治参加

講師: マリオン・ネザー＝ラター氏 共同発表: リブ・オールセン氏 (インスブルック大学大学院生)

公の議論において、地方はしばしばデジタル社会の対極的なモデルとして描かれるが、インフラが不十分な状況下であっても、地方に住む若者たちのコミュニケーションは本質的にデジタルを介して行われている。

本講演では、物理的空間とデジタル空間がどのように織りなされてハイブリッドなソーシャル・スペースを形成しているかを明らかにしたい。また、農村地域においてソーシャルメディアが、アイデンティティ形成の資源として、(トランス・ローカルな) 共同体の形成、そして民主的な参加や社会参加の基盤として、どのような役割を果たしているかを検討する。

講演② 17:00~ 日常の「モノ」、知識を生み出す「モノ」―飲料ボトルにみる文化科学的「モノ」研究の意義

講師: ビルギット・ヨーラー氏

本講演では、文化学的な視点に立つ物質文化研究の可能性を、ヨーロッパの多くの地域ですでに日常の必需品となっているあるモノ、すなわち飲料ボトルから示す。驚くべきことに、このモノはこれまでの文化研究においてほとんど注目を集めてこなかった。しかし、水を飲むことは現代社会における中心的な健康言説の一つであり、水そのものもまた世界で最も貴重な資源の一つである。ウィーンの軍事史博物館 (HGM) を念頭におきながら、この現代に根ざした日常生活文化の研究が、HGM のコレクションにある歴史資料とどのように結びつけられるかについても考察したい。

◇シンポジウム概要◇

- 【日時】 2026年9月4日(金) 16:00~18:00 (開場 15:30)
- 【会場】 成城大学3号館1階311教室
- 【講師】 マリオン・ネザー＝ラター (Prof. Dr. Marion Näser-Lather)
(インスブルック大学准教授、オーストリア経験文化学・民俗学会会長)
ビルギット・ヨーラー (Prof. Dr. Birgit Johler)
(ウィーン軍事史博物館学芸員)
- 【司会】 及川祥平 (文芸学部文化史学科)
下田和宣 (文芸学部ヨーロッパ文化学科)
- 【お申込み】 参加をご希望の方は、9/2(火)までに以下の事前申請フォームよりお申込みください。
<https://forms.gle/Ly74ekPiY5AAQVcaA>
- 【参加費】 無料
- 【備考】 ※講演はドイツ語で行われます (講演内容字幕、質疑応答通訳あり)
- 【お問合せ】 成城大学文芸学部共用研究室 Mail:bungei55@seiyo.jp



◇講師紹介◇

マリオン・ネザー＝ラター (Marion Näser-Lather)

インスブルック大学歴史学・経験文化学研究所 准教授。マールブルク大学でヨーロッパ民族学を学び、2016 年、インスブルック大学着任。オーストリア経験文化学・民俗学会会長。研究関心はジェンダー研究、抗議活動研究、デジタル化、センシティブな問題の取り扱い、批判的軍事研究、政治の人類学、等。

ビルギット・ヨラー (Birgit Johler)

ウィーン軍事史博物館 学芸員／展示部門長。ウィーン大学でヨーロッパ民族学を学び、オーストリア民俗学博物館、グラーツ民俗博物館での学芸員を歴任する。研究関心は 20 世紀の日常生活の歴史、物質文化・歴史的衣装の研究、記念顕章と想起の実践、ユダヤ史とナチズム、博物館論、等。